

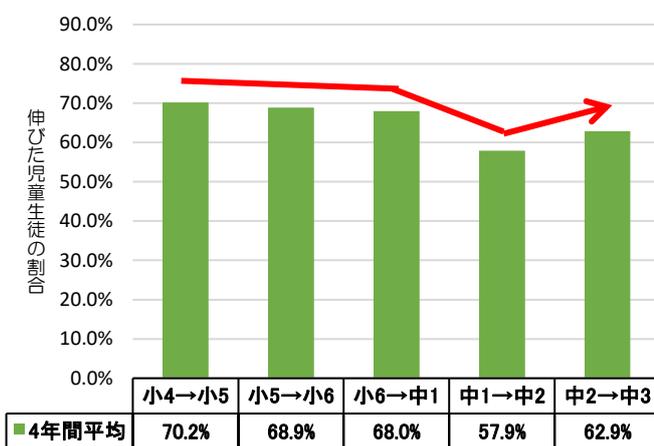
1 「学力の伸び」の状況（平成27年度～令和元年度）

埼玉県学力・学習状況調査の実施は、今回で5回目となり、4度目の「学力の伸び」の状況が分かりました。4年間の「学力が伸びた児童生徒の割合」を平均した結果の傾向と対応策をお伝えします。

傾向

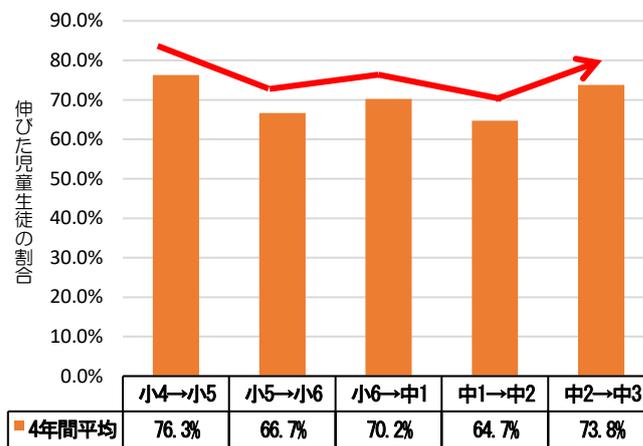
- 「学力が伸びた児童生徒の割合」が最も多いのは、小学校4年生から5年生にかけてであり、最も少ないのは中学校1年生から2年生にかけてである。教科担当制に変わるなどの学習環境の変化、新しい教員や友人との関わりなどの生活環境の変化等により、学習面での伸び悩み（中1ギャップ）が起きていることが考えられる。
- 中学校2年生から3年生にかけて「学力が伸びた生徒の割合」が増加する。中学校の学習環境・生活環境に慣れてくることや、進路を意識して家庭での学習などに一層力を入れたりすることが考えられる。

国語科



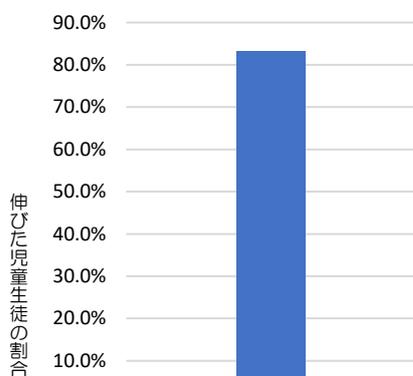
H27→H28	85.4%	65.1%	61.2%	46.6%	56.6%
H28→H29	73.1%	70.2%	71.7%	66.0%	68.3%
H29→H30	71.0%	66.7%	67.0%	57.4%	60.9%
H30→R1	51.2%	73.5%	72.2%	61.7%	63.7%

算数・数学科



H27→H28	76.8%	64.9%	66.1%	60.2%	79.0%
H28→H29	71.4%	65.2%	69.2%	64.8%	74.7%
H29→H30	77.8%	65.8%	70.6%	64.2%	69.1%
H30→R1	79.3%	70.8%	74.7%	69.4%	72.2%

英語科



■ 4年間平均	伸びた児童生徒の割合
中2→中3	83.2%

H27→H28	69.1%
H28→H29	88.8%
H29→H30	90.9%
H30→R1	84.1%

※数値の見方

これらのグラフ及びデータは、前年度と比べて「学力の伸び」が見られた児童生徒数の受検者数全体に対する割合です。教科ごとに「学力の伸び」が見られた（各学校に送付した帳票 01「教科に関する調査 採点結果」にある「昨年度からの学力の伸び」の値が1以上であった）児童生徒数を、受検者数で割った値です。

いわゆる「伸び率」（全ての児童または生徒の「学力の伸び」の値を足し合わせて、受検者数で割った値）ではないことに注意してください。

対応策

【よい取組の共有】

子供たち一人一人のつまずきを早期に発見・支援するとともに、学力を大きく伸ばした（学力を伸ばした児童生徒の割合が大きい、学力の伸び率が高い）学年や学級を把握し、担当者からの聞き取りや授業参観を行うなど、効果的な取組や工夫を、学校全体で共有し実践する。

【主体的・対話的で深い学びの実現】

本調査のデータ分析結果を踏まえ、調査結果における児童生徒の非認知能力や学習方略等の状況を把握した上で、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業の工夫・改善を進める。

【学級経営の充実】

学習規律の定着があり、児童生徒同士のトラブルが少ないなど、落ち着いた学級づくりを目指すとともに、保護者や地域の方々が学校の諸活動に積極的に参加できる学校づくりを実践する。

【小中連携の推進】

中学校区内の小・中学校で合同研修会や授業研究会を実施し、指導法の違い等について共通理解を図るなど、学習面での小中連携を一層進める。

教科別授業改善の視点

国語科

【多面的に思考し、自分の考えを深める活動】

- 複数の本や新聞などの資料を活用して自分の考えを書いたり、他者や本との対話から自分の考えを整理して表現したりする場面を意図的に設定しましょう！
- ねらいに即して発言を切り返したり、問い直したりすることで、子供一人一人が自分の考えを深められるようにしましょう！

【言葉の特徴や使い方に関する事項の定着】

- 主語と述語の関係や、修飾と被修飾との関係などの「知識及び技能」の定着を図りましょう。その際には、他教科や日常生活、社会生活等で生かせるような具体的な場面をイメージさせ、思考・判断、表現することを通じて定着させましょう！

【振り返りの実施】

- 子供自身が考えの変容を確認したり、新たな問いや疑問を持ったりすることができるように、学習した過程を振り返る時間を確保しましょう！

【国語科で培った力を他教科等で生かす取組】

- 「話すこと・聞くこと」の単元で身に付いたことを生かして、他教科等で話し合う活動などを、年間指導計画に明確に位置付けて取り組みましょう！

算数・数学科

【日常生活や社会の場面からの課題設定】

- 学習課題を設定する際に、日常生活や社会と関わりを持たせることで、イメージを持って課題に取り組めるようにしましょう！

【見通しと振り返りの実施】

- 既習の確認、具体物の操作等、一人一人の子供が自分なりの考えを持てるように支援しましょう！
- 子供自身が考えた結果や過程を振り返る時間をとりましょう！

【言語活動の充実】

- 図、言葉、数、式、表、グラフなどの数学的な表現を用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりするなどの学習活動を積極的に取り入れましょう！
- 子供の発言への切り返しや、子供の発言をつなぐことを意識しましょう！

【統合的・発展的に考える力の向上】

- 子供たちがそれぞれの考えに共通点や相違点を見いだしたり、問題の条件を変えて考えてみたりするなど、思考を深める場面をつくりましょう！

英語科

【単元の目標を明確にした授業づくり】

- 生徒に身に付けさせたい力を明確にした「単元の目標」や、授業1時間の目標（めあて）を生徒に提示することで、学習の見通しや活動の目的意識を持たせましょう！

【目的・場面・状況設定を大事にした言語活動】

- 具体的な場面・状況を設定し、言語活動に必然性を持たせ、生徒自身の考えや気持ちなどを表現したり伝え合ったりする活動を行いましょ！

【相手意識を持たせた表現活動】

- 英語を話したり、書いたりする活動では、誰に対して伝えるのかを明確にして、相手意識を持たせた表現活動を行いましょ！

【フィードバックや振り返りの充実】

- 生徒が行った活動に対するフィードバックや振り返りを行うことで、生徒自身の学びや変容を自覚できる場面を作りましょ！

これらの「授業改善の視点」は一例です。こうした視点を参考に、各学校の実情に合わせた工夫・改善を行い、児童生徒一人一人に応じた指導の充実を図るようお願いいたします。